



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

平成29年度 道徳教育研修会

高知市立一宮中学校
平成29年11月17日（金）

【講演】道徳の教科化に向けて

講師：畿央大学 島 恒生 教授



板書には「第〇回道徳」と記したり、担任以外の教員による授業を行ったり、行った授業リストを全教室に掲示したりと、一宮中学校は「道徳の授業」にチーム力を感じる。

【チームとして取組む体制づくりと力強い実行】

- ・ 授業をひらく(協働で授業を計画し、互いの授業を見合うシステムを作る)
- ・ 学校の授業の財産を残し、増やす
- ・ 小・中学校の連携、協働

3年生の研究授業から考える

主題名 感謝・思いやり

教材名 「帰郷」（私たちの道徳）

Q 「帰郷」を通して考えさせたいことは何か。

A 私たちは人に頼らなければいけないことが必ずある。その時に感謝する気持ちをもてるのか。素直に心から感謝しながら相手に頼ることが大切なのである。そして頼られた時には、自分がその人のために一生懸命やればよい。人はお互いに支え合って生きていくものなのだから。そこに気付かせる。

構造的な板書へ



読む道徳

- 発達段階を十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる分かり切ったことを言わせたり、書かせたりする授業
- 読み物の登場人物の心情理解のみに偏る授業

考え、議論する道徳

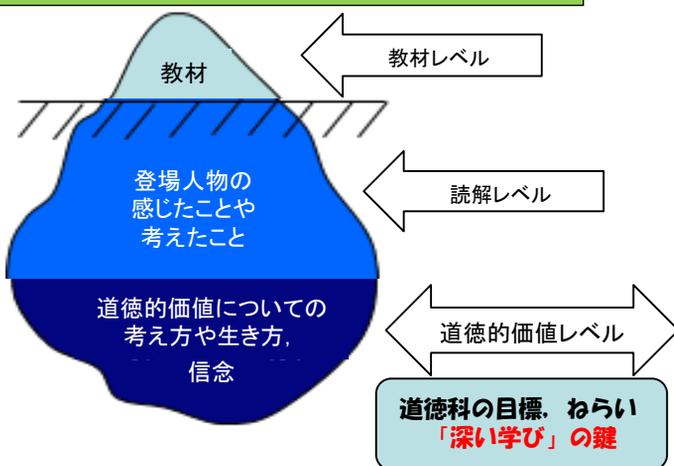
「主体的・対話的で深い学び」への学習過程 「一方的に伝える授業」→「考え合う授業」への授業

《めざす授業》

- 思わず、ぐっと考えたくなる授業
- 隣の友だちと話したくなる授業
- 初めて考えたという授業
- 子どもが発見し、手柄となる授業

児童生徒理解を基に、子どもが活躍し、それをみんなで楽しめる授業へ

道徳科の授業のイメージづくり



授業づくりのポイント

- ・ 教師のねらいや教材のとらえ方をさらに深く広くし、子どもの言葉でねらいを考える
- ・ 子どもの考えに沿った流れを作る
- ・ 学習形態を子どもに選ばせてもよい
個人思考・「班にする？全体にする？」
- ・ たっぷりと考える時間をとる
- ・ 子どもの意見を説明するのは教師ではなく子ども
- ・ 子どもに手柄をもたせる

道徳教育をすすめることで

- 生きることへ希望や意欲がもてるようになる
- 自分に自信がもてるようになる
- 自分の誇りを育てるようになる

道徳科の評価

- 教育活動全体と道徳科の評価を区別する
- 学習指導過程における指導と評価を一体的にとらえることが重要である
- 子どもの学習状況や道徳性に係る成長の様子について
 - ・ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - ・ 多面的・多角的な思考のなかで、道徳的価値の理解を自分自身との関わりのなかで深めているか

公開研究授業：3年2組 理科「化学変化とイオン」

授業者 山崎 美奈実 教諭

本時の課題の共有 → 共有の課題を解決するためのグループ学習 → JUMP課題の個の学び⇒グループ・全体での学びあい

中和反応が
起こるしくみ
をイオンを使
って説明しよ
う

塩酸と水酸化ナト
リウムを混ぜると、な
ぜ水溶液が中性に
なるのだろう



濃度が違う塩酸と水
酸化ナトリウムを混ぜて
中性にするにはどうす
ればよいだろう



研究協議 ー学びあい学習のポイントは達成できていたかー

- 子ども一人一人が「学び」の主人公になっているか
 - 教師は、子どもの「困り感」「つぶやき」を受け止めることができているか
 - 授業で「学び」を共有する場面があったかどうか
- ※ 研究の取組については、所報「研究」（10月号）をご覧ください。

学びの共有は？



講演Ⅰ 「特別支援教育の観点を含めた授業について」

高知大学教育学部 是永 かな子 准教授

○ 机間指導で

個別支援の後は「○○さんの話の続きを聞いてあげて」と班の子どもとつなげてから離れる

○ 教師の立ち位置

困っている子どもの対角線の位置に立ち、「他の人はどう思う？」と班の子どもにつなげる

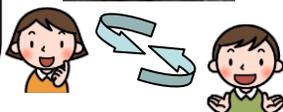
○ 「先生！」と呼ばれたら

まず「班の人に聞こう」と返し、教師がすべて引き受けない

○ 班の学びの発表場面で

班全員が発表に関わるように役割分担する

子ども同士や子どもと教材をつなぐことで、すべての子どもの達成感を高めましょう



○ 活動を始める前に

「後で感想を聞くからね」など、活動の目的を伝える

○ 思考の手掛かりとして

ヒントカードを使ったり、キーワードを板書したりすることで、子どもが困ったときに振り返ることができるものを示しておく

○ 学習の進度に応じて

問題が解けて「もう終わった！」と思っている子どもに更なる課題を提示する

○ 次の学習段階に進む前に

「何が分かったか」を明示し、次の学びへつなげる

子ども同士をつなげる

子どもと教材をつなげる

講演Ⅱ 「人権教育を基盤とした学びあいのあり方」

元富士市立岳陽中学校長 佐藤 雅彰 先生

子どもを丸ごと引き受けること、一人一人の学びを保障することが人権教育の基本。人間関係を育む授業づくりでは、教師と子ども、子ども同士の関係がよくなる。



子どもへの声かけのポイント ー子ども心に伝わる言葉でー

学びが停滞している際は1分以内に近づき、1分以内で終わる声かけをする

× 「この前も寝ていたね」・・・一方的な支援(ケア)

教師は『声をかけた』と思っているが、子どもはそう思っていない

○ 「さあ、一緒にやろう！」・・・子どもも『声をかけてもらった』と感じる通いあう支援(ケアリング)

それを見ている他の子どもも、同じような声かけをするようになる

子どもの学びを保障するポイント ー分らないから学ぶ、共に新しく学んでいこう、という姿勢でー

対等な立場で安心してつぶやくことができる課題設定と支援を行う

☆ ワークシートは文字だけでなく、図や絵などで示すと、文とつなげて考えられるようになる

☆ グループ学習の際、机上での操作を通して考えることができるモノ(具体物)を用意する

☆ 前で掲示する図表や絵などは、遠くから見てもよく分かる大きさにする

☆ 机間指導で単純に一巡するのではなく、まず全体を見て、支援が必要な所へ学びがつながるような声かけをしに行く

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。